



茨城県筑西市

若者の力を活かし、市の魅力を発信する

下館祇園まつり 写真提供：筑西市

茨城県内の44市町村を、それぞれにゆかりのある筑波銀行の支店長がご紹介します。第20回は、筑西市です。筑波銀行は、筑西市内に6カ所8カ店の営業店を設置し、筑西市の皆さまと密接な関係を築いています。筑西支店長の長島明伸が、筑西市副市長 木内良夫氏、市長公室長 稲見猛氏、企画部長 小堀幹也氏、経済部長 市塚克己氏、教育部長 滝田誠氏にお話をうかがいました。

●筑西市が一番と考えていること、自慢できることはなんですか。

筑西市の観光の自慢は、7月に4日間にわたり行われる下館祇園まつりです。明治神輿、女子神輿、平成神輿、各町内の34基の子供神輿が市街地を練り歩き、最終日は市内を流れる勤行川で神輿を清める全国でもめずらしい「川渡御」で締めくくられます。平成神輿は重さが2トンあり、毎年担ぎ出される神輿としては日本一の大きさです。昨年は4日間で延べ20万8,000人の人出があり、神輿が通る沿道は文字どおり立錫の余地もないほど混雑しました。

本市は西部を鬼怒川、東部を小貝川、市街地を勤行川が南下し、肥沃な田畑が美しく広がっています。にら、きゅうり、トマト、なし、いちご、こだますいかは茨城県青果物銘柄産地に指定され、収穫量が茨城県内で1位の作物が何種類もあります(表1)。全国有数の農業県である茨城県内でも3本の指に入ると自負しています。特に、そば(常陸秋そば)の収穫量が県内1位で、美味しい地産地消のそばが食べられることも合わせて広く

■表1 筑西市の農産物収穫量の順位

	茨城県内	全国	統計年
水 稲	1位	29位	平成25年
大 豆	1位	17位	平成25年
そ ば	1位	5位	平成25年
日本なし	1位	3位	平成18年
す い か	1位	15位	平成18年

知らせていくべきだと感じています。

自然風景で特筆すべきことは、市内の勤行

川の鮭の遡上です。鮭の遡上の南限といわれる利根川を通り、市街地を流れる勤行川に上ってくる非常に貴重な現象です。10月下旬から11月下旬が見ごろで、下館小学校近くの新橋付近が、鮭の産卵場所が多く、鮭の姿がよく見える絶好のポイントです。地元のしもだて紫水ロータリークラブを中心に、市民が勤行川をきれいにし、鮭の稚魚を放流してきた10数年間にわたる努力が実ったものです。

また、本市は筑波山の眺望が素晴らしく、特に母子島遊水地は「筑波山のベストビューポイント」に選ばれています。10月と2月に見られる山頂に日の出が重なる「ダイヤモンド筑波」は多くの人や写真家に親しまれています。平坦な地形なので、空気の澄む冬には富士山も同時に見ることができ、まさに「西の富士、東の筑波」の眺望が楽しめます。

下館駅から栃木県茂木駅間の真岡鐵道は毎週土曜・日曜、祝日に蒸気機関車(SL)を走らせてい



ダイヤモンド筑波

写真提供：筑西市



木内副市長



稲見公室長



小堀部長



市塚部長



滝田部長



長島支店長

ることが自慢です。C11型とC12型の2台の機関車を連ねる「重連運転」を行うこともあり、迫力あるSLの雄姿を見ようと多くの見学者、写真家が沿線に集まります。第三セクターの鉄道会社が2台の蒸気機関車を保有しているのは全国的にもあまり例がありません。

本市は陶芸家、洋画家、書家、文筆家、ソプラノ歌手など国内外で活躍する多くの文化人を輩出しています。美術の分野では3名の茨城県出身者が文化勲章を受章されていますが、そのうち陶芸家の板谷波山先生、洋画家の森田茂先生が本市の出身です。茨城県内で唯一の総合的な市立美術館であるしもだて美術館には、このお二人を始めとした郷土にゆかりのある作家の作品を多数収蔵し、展示しています。かつて与謝蕪村や青木繁が滞在して創作を行い、現在でも漆芸家で人間国宝の大西勲さんや多くの作家が活動の拠点とする筑西市。市民サークルの自主的な文化活動も盛んで、秋の芸術祭、文化祭の会場は魅力的な作品で埋め尽くされます。

●今後の展望について教えてください

全国的に人口減少が急速に進展する中で、筑西市の人口も、平成17年の合併からこの9年間で8,000人以上減少しています。また、昨年5月に日本創生会議が発表した将来推計人口では、平成52(2040)年までに20～30代の若年女性が半分以上に減り、将来的に消滅の可能性のある自治体の中に含まれていました。

少子化対策と定住促進が大きな課題です。若い人に住んでもらい、安心して子育てができる施策を実施しなくてはなりません。住んでもらいたい

若い人たちと同世代の職員の考えや感覚を活かした施策にするため、20～30代の職員30名によるプロジェクトチームをつくりました。10名ずつ3チームに分かれ、「魅力増進」、「婚活・子育て」、「雇用・定住促進」についてそれぞれ検討し、68件もの提案が出されました。平成27年度から実際に取組みを開始しますが、ふるさと納税の受け入れ体制の見直しなど予算を必要としない提案は平成26年度中に早速取り組んでいます。

ふるさと納税の活発化を図る取組みは、魅力ある市をアピールする発信強化の一環です。平成27年1月から、申込者への贈答品目数を48品目に増やし、贈答品を贈る寄附金の額を5万円から1万円に引き下げ、インターネットのふるさと納税専用サイトで申込みができるようにしました。効果は絶大で、平成25年度の寄附は9件、91万円だったものが、贈答品目数を増やした1月以降の2週間で482件、約500万円にもなりました。この取組みはテレビや新聞にも取り上げられ、大きな効果を感じています。

その他に、若手職員を鍛えるために、平成24年度から入庁3年目の職員の研修に、「私が市長になったら」をテーマにプレゼンテーションを行うプログラムを実施しています。自分で施策を検討し、プレゼン能力を磨き、市長や各部長にプレゼンするので、かなり緊張するようですが、市の在り方について自分の考えを伝える能力を培うことは今後行政に取り組んでいく上で重要です。この研修で提案された子育てに関する施策も実際に取り入れています。

●筑波銀行に期待することをお聞かせください。

地方創生の取組みに協働して取組めたらよいと考えています。筑波銀行のもつ多様なネットワークを活用し、本市を宣伝していくことも考えていきます。市内の支店の皆さんが市のイベントに参加してくれることも期待しています。

また、今後の行政運営には民間の力を活用することが不可欠であり、特に地域経済の活性化への提案を期待しています。事業者支援のための低金利融資や、市民のニーズや筑波銀行のもつデータを市に伝達してもらうことも期待しています。



真岡鐵道SL運転

写真提供:筑西市